令和７年度　自己評価報告書

令和８年３月

岐阜県立下呂看護専門学校

１　本校の基本理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

２　令和７年度組織（所属）目標及び実績

１）在校生の学修継続支援の充実

①学生生活実態調査における学生満足度 100％
②担任・副担任による個別面談（定期・適時）と情報の共有
③担当教員制による国家試験の学習支援（3 年生 14 名を教員 5 名で担当）
④スクールカウンセラーの活用促進
（入学式での紹介、スクールカウンセラーの日、臨時、研修会等）
⑤「スクールカウンセラーの日」及び「臨時」利用の学生、延べ 6 名利用／年
校務総括（衛生専門学校）による面談、延べ 2 名／年
⑥学生意見箱の意見対応：2 件、お悩み相談箱（男子・女子更衣室）の意見：0 件
Logo フォームによる相談（実習に関すること）：2 件
⑦ストレスチェック：5 月、10 月、2 月
⑧卒業生と語る会：10 月
⑨学生生活実態調査：9 月、2 月
⑩睡眠時間調査：通年
⑪授業参観：2 回／1 人（100％）、授業研究１題、指導事例検討会：4 題
⑫受講研修： 1 回～2 回／1 人（100％）、伝達講習の実績：1 回／1 人（100％）
⑬科目評価：すべての専門分野について実施

２）入学生確保対策の充実による入学生数の確保

①岐阜県内高等学校訪問 35 校（５日間）
②オープンキャンパス：７月 19 日（土）33 名参加（付き添い含む）10 月実施：参加者 2 名
下呂温泉病院見学と下呂市による奨学金説明
③進学ガイダンス参加：14 回
④出前授業：５件（下呂市内小学校１校（２学年)、中学校２校、高等学校１校）
・看護師の職業について、コミュニケーション、看護技術体験　など
・出前授業は、下呂温泉病院、下呂市職員と他施設合同で実施した。
⑤地域行事への参加：全学生参加、夏祭り、認知症カフェ、ねんりんピック岐阜 2025、地域の清掃活動、放課後児童クラブ、話相手・散歩付き添い、地域の清掃活動　等参加
⑥ホームページ：15 回／年更新、インスタグラム開設

3）日常の業務の効率化とワークライフバランスの推進

①校務支援システムの導入：時間割作成、成績管理、認定会議資料作成、掲示板の活用開始。
②日常の業務を見直し、重複内容の整理、慣習でやっていることを整理した。
③年次休暇（目標 13 日以上）の取得
・年次休暇　一人平均 8.1 日（目標到達度 72%）
・夏季休暇　全員 4 日取得　（目標到達度 100%）
④時間外勤務時間　月平均 9:43／人

3　評価項目の達成および取組状況

1）学校経営　　項目番号１

評　価　項　目	評価点
・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表しているか。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。	4.7

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・組織目標を設定し、教職員と共有した。組織目標をもとに各委員会が今年度の目標、計画を立案し、職員が同じ方向に向けて取り組んだ。
・組織目標の中間評価と年度末評価を行い、目標達成に向けた取り組みを実行した。
・学校運営上の課題に対して、職員会議等において教職員と情報共有し、課題の解決に努めた。
・学校運営評価（10 月・3 月）を実施し、職員会議で共有後、ホームページに掲載した。

【課題及び対策】

・前年度の組織目標の達成度をもとに組織目標を策定し、教職員で共有し取り組みを行う。
・学校運営上の様々な課題について、課題解決に向け迅速に対応する。

2）学科運営　　項目番号２

評　価　項　目	評価点
・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	4.4

・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・年間を通しカリキュラム委員会、実習委員会を中心に、教育内容や方法の検討を行った。
・ディプロマポリシーの各学年の到達度、卒業時の到達度を明確化した。年度末に在校生、卒業年次生、卒業生に対し到達度を評価し、カリキュラム評価を実施した。その結果を受け、教育内容を検討している。
・適宜、各科目評価会議を実施した。該当科目とカリキュラムの関連性を教員間で確認し合い、講義時期、内容、方法を検討見直した。また、3年生から1月以降に科目試験や論文作成等の課題により、国家試験に向けて集中して学習ができないと意見があった。学内で学習進度を含め検討した。
・より実践的な学習を目指し、下呂温泉病院内で演習を実施した。臨床の環境下での演習はよりリアリティがあり、病棟看護師にも参加いただくことで、臨床に即した学習ができた。
・基礎看護学と専門科目の進度を確認し、専門科目で学習した内容を生かした授業ができるよう講義時期を見直した。
・1年生が受講するコミュニケーションの授業では、地域の高齢者を学校に招き多くの話を伺った。年齢の異なる方とのコミュニケーション方法を実践し、地域で暮らす高齢者の価値観にも触れる機会となった。
・2年生が地域住民の交流会に直接出向きコミュニケーションを図ることで、健康に関連するニーズを知ることができた。それを活かして食事や塩分の取り方、フレイル等、健康支援にかかわる保健指導を実施できた。
・学生への時間割の公表は概ね1か月前に行った。
・教育課程や看護学実習要綱を用いて、科目のねらい、学習方法、評価基準などについて、学生に繰り返し説明した。
・未履修科目のある学生と4月に面談し、履修に向けて支援した。
・実習施設への学生指導の協力を依頼し、指導体制及び実習環境を整備した。
・主たる実習施設の学生指導委員会に教員が参加し（4回／年)、実習指導者と課題等の検討を行った。その際、学生の実習記録を用い、具体的な指導方法を検討した。また、病院の施設を借用したクリティカルケアの技術演習について説明した。
・学生の実習における学習内容を担保したうえで、実習記録の削減を行った（老年・小児・精神看護学実習)。
・臨地実習時のインシデントは、速やかに報告し、再発防止に向けて取り組んだ。

【課題及び対策】
・3年次の学習進度について見直しを行う。
・カリキュラム評価結果から、カリキュラムを見直す。

3）入学・卒業対策　　項目番号３

評　価　項　目	評価点
・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国試の合格者が 100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生への支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。	4.2

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・教職員でアイデアを出し合いながら学生確保に向けた取り組みを行った。
・オープンキャンパスを学校行事と位置づけ全校で取り組んだ。しかし、他校とオープンキャンパス日が重なり、参加者からの問い合わせがあった。
・オープンキャンパスの PR 活動は、JR など公共機関、下呂市内の中学校、岐阜県内の高等学校などに行い、ポスターの掲示を依頼した。
・オープンキャンパスは、7 月と 10 月の 2 回実施した。7 月は、対象者を中学生以上とし、10 月は高校生以上を対象とした。下呂市内各学校に出向きアナウンスした。昨年度と同様に下呂温泉病院職員による病院見学を実施した。下呂市職員による下呂市修学資金を紹介する時間を設けるとともに、下呂市ブースを設置した。
・出前授業を行い、地域や小中学校への PR 活動を行った。
・前年度より志願者、入学者ともに減少した（R6:22 人→R7:11 人）。
・教員全員で国家試験対策を実施した結果、国家試験合格率は 93.3%だった。
　＊全国の国家試験合格率 88.3%
・カスタマーサクセス（アプリ）を活用した。3 年生を対象に 10 分間テスト、過去問題など毎日配信した。1、2 年生には、定期的に問題を配信し学習を促した。さらに、成績不振者を対象に、学習方法等面談するなど個別対応を定期的に行った。
・3 月に卒業生交流会を実施した。8 名の卒業生が参加し卒業生間、教員と交流した。近況報告や仕事継続に向けて教員からのアドバイスを受けた。
・県内就職を推奨し、県内就職率は 84.6%だった。
・年度内の退学者は０、休学者は 1 名。

【課題及び対策】

・学生確保について組織的な取り組みを継続する。
・国家試験の全員合格に向け、1 年次からの学習支援を行う。
・国家試験手続きオンライン化に対する対応

4）学生生活への支援　　該当番号４

評　価　項　目	評価点
・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	3.7

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・定期および臨時の学生面談後に教職員で面談内容や記録の共有をタイムリーに行った。さらに困難学生に対しては、教員間で情報共有を行い組織全体で対応し、SC から助言を受け一貫した関わりができるようにした。
・精神的に不安定な学生に対しては、SC を紹介するなど対応した。
・学生の同意のもと保護者との情報共有を行い、学生支援の協力を依頼した。
・就職支援の充実を図るため、2・3 年生に就職支援アンケートを実施し、就職、進学について助言した。
・2 年生を対象に外部講師による就職支援ガイダンスを実施したところ、学生が主体的に自身の進路について教員に相談、学生間で相談するようになった。
・「卒業生と語る会」に県内就業した卒業生および保健師学科に進学し行政に就職した卒業生計 7 名を招き、1・2 年生と交流した。卒業生から各病院の特徴や国家試験への取り組み方を聞き、就職活動や今後の学習に向けてモチベーションを高める機会になった。
・学生生活実態調査（学生生活全般、ハラスメント、睡眠）を実施し、学生の生活状況を把握した。学生の意見については、速やかに対応を検討し、学生に説明した。
・年間をとおし授業料減免・奨学金制度の情報提供や手続きの説明等を行い、学生の経済的支援に努めた。
・Logo フォームの健康チェック項目より、学生の日々の睡眠時間調査を把握し、必要時教員間で共有し支援した。
・学校医及びスクールカウンセラーと連携し、学生の健康面の支援を行った。
・学生が相談しやすくなるよう、入学式においてスクールカウンセラーを紹介した。
・「スクールカウンセラーの日」はスクールカウンセラーが学内に待機し、いつでも対応できるようした。臨時の相談を含め、延べ 45 名／年が利用した。
・スクールカウンセラーによる学生のストレスチェック（3 回／年）を実施した。
・3 学年の縦割りグループによる交流活動を行った。

【課題及び対策】
・学生個別面談や各種アンケート調査結果を教職員で共有し、効果的な学生支援につなげる。
・専門的な助言が必要な場合は学校医、スクールカウンセラーとの連携を行う。
・各学生へのストレスへの支援と、ストレスを多く抱えている学業への支援を継続する。

５）教職員の育成　　該当番号５

評　価　項　目	評価点
・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	3.9

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・職場研修（8 回）、伝達講習会（9 回）実施した。
・授業参観と授業研究が計画どおり行え、教員間の学び合いの場になった。
・新任教員に対し、授業案の添削、実習指導後中の支援等実施した。3 回／年の面談と臨地実習指導後の面談を実施し、新任教員の業務状況や業務の負担の有無を確認するとともに、メンタル面への支援を行った。
・教員の臨床研修は実施できなかった。次年度計画予定。

【課題及び対策】

・教員の研修参加、伝達講習会、授業参観や授業研究をとおし、教員の教育力の向上を図る。
・臨床研修を計画する。
・新任教員（2 名）、2 年目教員（1 名）への支援体制を検討する。

6）管理運営・財政　　該当番号６

評　価　項　目	評価点
・予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4.4

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・予算策定、予算執行は計画的に行った。
・学生に対して、学生便覧や実習要綱を用いて、人権や個人情報保護に関する説明を繰り返し行った。
・学生・職員のヒヤリ・ハット事例を共有し、組織の視点から要因を分析し再発防止に取り組んだ。
・災害等の発生時の安否確認を校務支援システムに変更し、教員が学外から安否確認できるようにした。

【課題及び対策】

・学生に対して、危機管理に関する研修会（防犯・防災・薬物乱用防止）を行う。
・職員に対して、定期的な職場研修を行う。

7）施設設備　　項目番号７

評　価　項　目	評価点
・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。	3.7

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・非常通報装置の更新を行った。
・寄宿舎正面玄関キーレックス錠取り付け工事を実施した。
・冬場、教室の寒さ対策のため、各教室にストーブを購入した。
・学生が作成した成果物を印刷するためのプリンターを購入した。
・玄関にスロープを設置した。

【課題及び対策】

・講堂、実習室、図書室を LED に変更する（学校内の LED 化完了）

8）広報・社会貢献・地域活動　　項目番号８

評　価　項　目	評価点
・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	4.0

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・ホームページの更新を 15 回／年行った。また Instagram を開設した。

・地域や小中高等学校に出向き（5 校)、学校のアピールを行った。

・地域で行われている住民の交流会に参加しコミュニケーションを図ることで、住民の困りごとを把握し、健康な生活に向けての支援を行った。

・実習施設に学生ボランティアの案内を行い、申請のあった施設に対しボランティア活動を行った。今年度全学生がボランティアに参加し、のべ 69 名が参加した。

・学生自治会が、地域の清掃活動を計画し実施した（2 回／年)。

・卒業記念事業として、卒業前の 3 年生が下呂駅・バス停・実習施設の清掃活動を行った。

・緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練に 1、2 年生が参加した。

【課題及び対策】

・SNS などを用いた地域への情報発信を定期的に行う。

9）独自項目（寄宿舎）　　項目番号９

評　価　項　目	評価点
・寄宿舎の施設・設備は安全・安心が確保され、学業に専念できる生活環境であるか。	4.8

○評価点：よい　5　　ややよい　4　　普通　3　　やや不十分　2　　不十分　1

・寮生は合計 21 名（1 年生 11 名、2 年生 4 名、3 年生 6 名）であり、昨年度より 2 名減少した。

・7 月に寄宿舎の防災訓練を実施した。

・1 月に寄宿舎入寮生調査を実施した。学生の意見を学内で丁寧に検討し、寮での生活がしやすいよう見直しを図った。各部屋の消灯時間をなくし、夜中まで学習する学生のための環境を整えた。週末に在寮したい学生のため、2 人以上であれば在寮可能とするとともに、申請用紙を簡略化した。

・現在の学生に合わせ、従来の様々なルール等の見直しを行った。

【課題及び対策】

・学生の意向を確認しながら、寮の規則の見直しを行う。